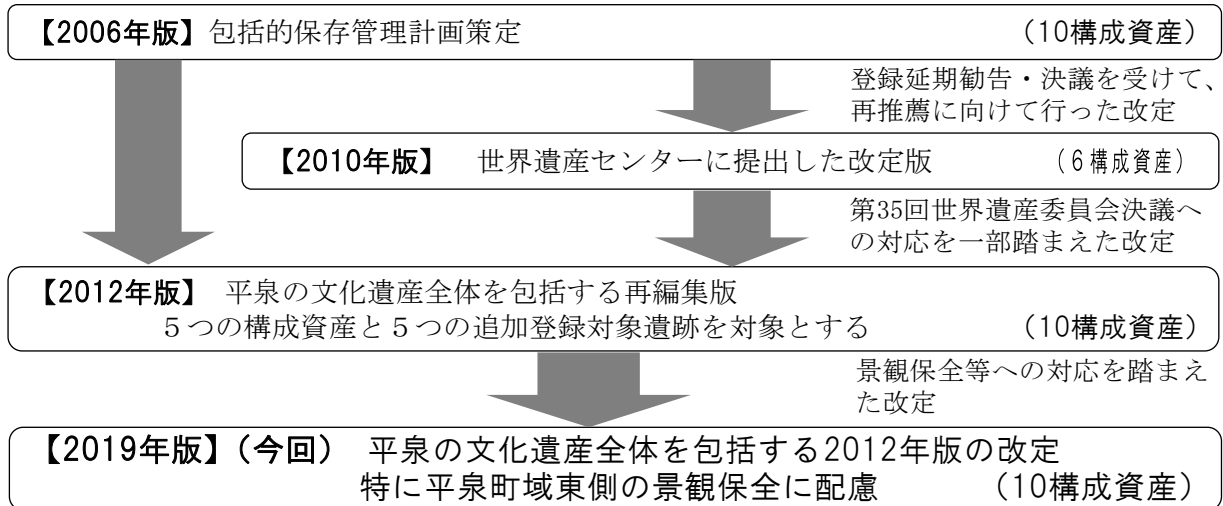


ア 「平泉の文化遺産」包括的保存管理計画の改定について

世界遺産「平泉」の保存管理活用に関して、世界遺産委員会の指摘課題に対応するため、本年度末に計画を **別冊6** により改定すること。

1. 「包括的保存管理計画」改定の経緯



2. 改定すべき事項

(1) 計画策定主体の検討

ア 策定主体として「一関市・奥州市・平泉町」を加えること。

(2) 緩衝地帯の適切な範囲設定

ア 新規の大規模開発行為（風力発電施設や携帯電話基地局等）への早急な対応として、平泉東側山稜部及び骨寺村荘園遺跡北側に関する景観計画を改定（範囲拡大）【別紙】

※「緩衝地帯」の拡大は、世界遺産委員会による決議が必要であること

(3) 「来訪者管理戦略」の実践と成果

ア 策定済の「戦略」を計画に記載すること。【別冊6】包括的保存管理計画 pp95-97 参照】

イ 世界遺産委員会の決議（2011）に対応した「来訪者管理戦略」（2015年策定）について、計画に追記。

3. 未対応課題の継続検討

ア 世界遺産委員会等から指摘されている課題のうち調整未了の内容については、今後予定している拡張登録推薦書素案の提出時期に合わせて改定を行いたいこと。

①遺産影響評価 ②屋外広告物の規制 ③経過観察指標の検討 ④騒音に対する対策

4. 経過と今後のスケジュール

H30（2018）. 11～H31（2019）. 3月 平泉保存検討部会、平泉活用検討部会において検討

H31（2019）. 04. 01（月） 改定計画の運用

【別紙】緩衝地帯の拡大範囲

図1 「平泉の文化遺産」緩衝地帯の設定（範囲拡大後）

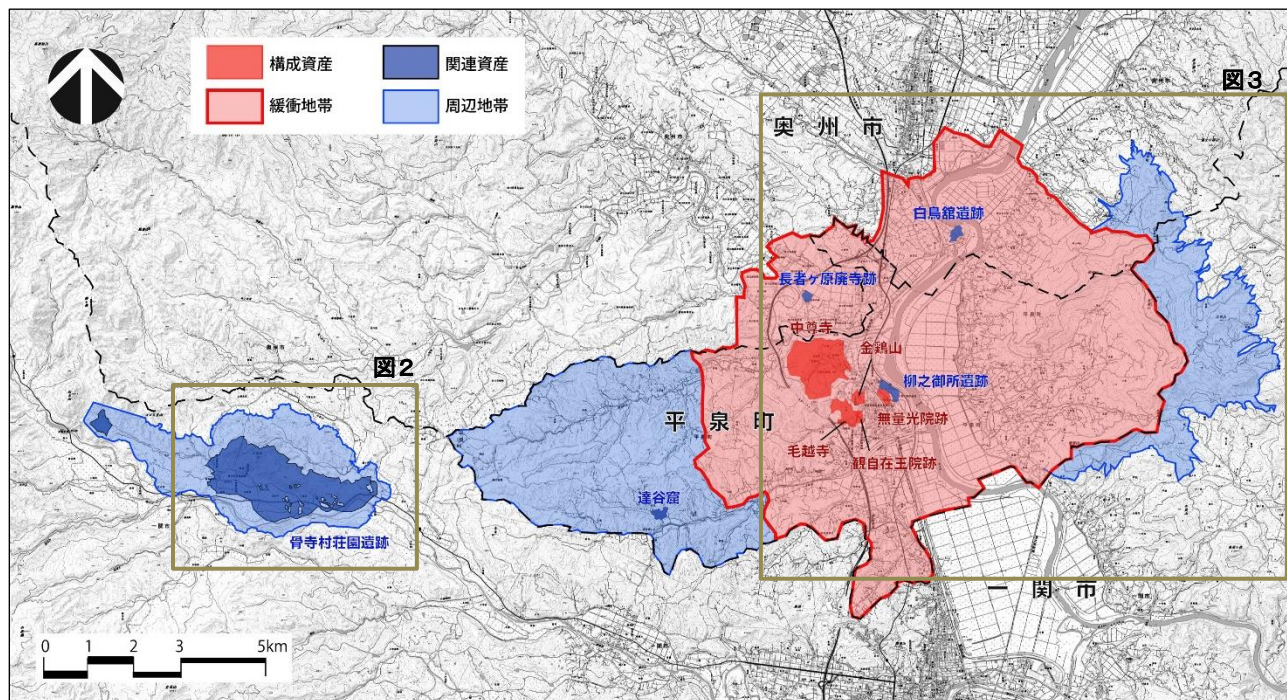
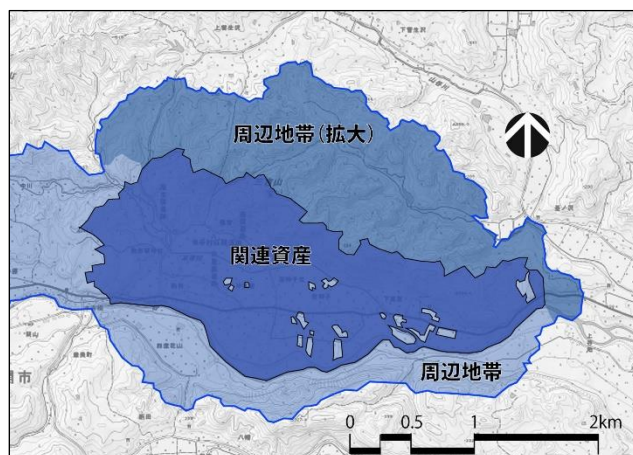
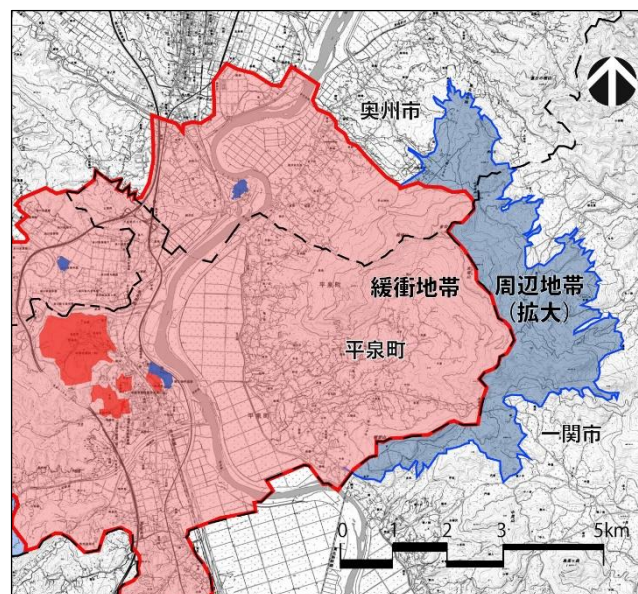


図2 骨寺村荘園遺跡の範囲拡大部分



*一関市の景観計画の適用範囲を拡大

図3 東稲山稜東側の範囲拡大部分



*一関市及び奥州市の景観計画の適用範囲を拡大